

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】令和3年7月26日(2021.7.26)

【公開番号】特開2020-129126(P2020-129126A)

【公開日】令和2年8月27日(2020.8.27)

【年通号数】公開・登録公報2020-034

【出願番号】特願2020-76195(P2020-76195)

【国際特許分類】

G 02 F 1/13 (2006.01)

G 02 F 1/1335 (2006.01)

C 09 J 201/00 (2006.01)

B 60 J 3/02 (2006.01)

B 60 J 3/04 (2006.01)

【F I】

G 02 F 1/13 505

G 02 F 1/1335

C 09 J 201/00

B 60 J 3/02 S

B 60 J 3/04

【手続補正書】

【提出日】令和3年6月8日(2021.6.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリカーボネートを含む樹脂によって形成された一对の透明基材と、前記一对の透明基材の間に配置された調光セルと、前記透明基材と前記調光セルとの間に配置され、前記透明基材と前記調光セルとを接合する2つの接合層と、を備え、

前記一对の透明基材の厚みは、1mm以上5mm以下であり、

前記調光セルは、電子制御により可視光透過率を調節可能であり、

前記接合層の貯蔵弾性率は、室温環境において、 $3 \times 10^4 \text{ Pa}$ 以上 $6 \times 10^6 \text{ Pa}$ 以下であり、

前記接合層の少なくとも一方の厚さは、50μm以上であり、

前記調光セルの厚みは、100μm以上800μm以下であり、

前記調光セルは、液晶セルを含み、

前記液晶セルには、VA方式、TN方式、IPS方式、FFS方式またはGH方式の液晶が用いられ、

前記一对の透明基材は、シャルピー衝撃値が1kJ/m²以上であり、

前記一对の透明基材に含まれるポリカーボネートの分子量は、17000以上である、調光部材。

【請求項2】

前記接合層の貯蔵弾性率は、室温環境において、1.4×10⁶Pa以下である、請求項1に記載の調光部材。

【請求項3】

前記接合層の貯蔵弾性率は、室温環境において、 1×10^5 Pa以上である、請求項1または2に記載の調光部材。

【請求項4】

前記透明基材と前記接合層との間に配置された易接着層をさらに備える、請求項1乃至3のいずれか一項に記載の調光部材。

【請求項5】

前記透明基材と前記接合層との間に配置されたバリア層をさらに備える、請求項1乃至4のいずれか一項に記載の調光部材。

【請求項6】

前記透明基材の前記接合層が配置された側とは反対側に、反射防止層をさらに備える、請求項1乃至5のいずれか一項に記載の調光部材。

【請求項7】

請求項1乃至6のいずれか一項に記載の調光部材を備える、サンバイザ。

【請求項8】

請求項7に記載のサンバイザを備える、移動体。